

THE EDDY DUCHIN STORY



悲劇の天才ピアニスト

エディ・デューチンの妻と子と

音楽に捧げた限りない愛の人生

*静かな感動が…暖かい心のふれ合いが
数々の名曲とともにいま甦える不朽の名作！

タイロン・パワー
キム・ノバク
ピクトリア・ショウ
【ピアノ演奏】カーメン・キャバレロ
サントラ盤=MCAレコード



愛情物語

カラー作品 ■ シネマスコープ / 監督 ■ ジョージ・シドニー / 製作 ■ ジェリー・ウォルド / コロムビア映画



***解説**

一九三〇年から二十年間にわたり、甘美な演奏によって全米を風靡した不世出の音楽家エディ・デューチンの、哀切きわまりない一生を描いた愛と感動の名作。彼は豊かな才能に恵まれて、楽壇で最高の人気を誇るまでにいたった。また家庭生活では妻と子に限りない愛情をそそぎ、こよなき幸福の日々を営んでいたが、不治の病にとりつかれ、若くしてこの世を去らねばならなかった。

この映画が一九五六年にはじめて公開された時、胸せまるその愛の物語は、テーマ・ミュージック「トゥ・ラブ・アゲイン」の心にしみる甘美なメロデーとともに、長く忘れ得ざる感動を人びとの心に残した。

生前のデューチンと親交のあったレオ・キャッチャーがオリジナル・ストーリーを執筆し、サミュエル・テラーが脚色、「バイ・バイ・バーデー」「心を繋ぐ六ペンス」などミュージカルものでは定評のあるジョージ・シドニーが監督した。撮影は「マイ・フェア・レディ」のハリー・ストラドリングが担当し、音楽は「ピクニック」のモリス・ストロフが演奏指揮をするともに総指揮にあたった。ピアノ演奏はカーメン・キヤバレロが吹込んでいる。

出演は「陽はまた昇る」の今は亡きタイロン・パワー、「ピクニック」「女の香り」のキム・ノバク、「アルバレス・ケリー」のビクトリア・シヨールという豪華顔ぶれである。



***エディ・デューチンと**

その音楽について

ピアノの名手エディ・デューチンは、一九〇九年四月一日、マサチューセッツ州ケンブリッジに生まれた。九歳の時ピアノを習いはじめ、五年後にボストンの有名なフェリックス・フォックスの門にはいり五年間学んだ。こうして彼はピアノに励むとともに、父の製菓の仕事のあとをつぐべく薬科大学にはいったが、いづれの道を進むか迷っていた。しかし卒業の前年、ピアノ・コンテストで一位に入賞し、彼は音楽の道を進むことにした。一九歳でデューチンはニューヨークに出て、スイート・ミュージックのレオ・ライスマン楽団にはいり、セントラル・パーク・カジノでピアノをひくことになった。

やがてデューチンの気品あるピアノは上流社会で評判になり、三年後の一九三一年には早くも独立して楽団を作り、主にウォルドルフ・アストリア・ホテルを中心に、放送に映画にレコードに活躍したが、一九五一年二月九日、白血病のため四二歳の生涯をとした。

デューチンのスタイルは、華麗の一語につきるが、数多いジャズ・ピアノストのなかでも、他に例を見ないとされるほど十分な基礎を持つっていただけに、シヨパン的な甘美さと同時に、チャイコフスキーの憂愁をもそなえていた。そして典雅で気品の高い風格をそなえるとともに花やかな雰囲気をも出し出していた。彼の楽団のテーマは、シヨパンの「夜奏曲 変ホ長調 作品九の二」を編曲したものである。

8月21日(土)ロードショー

西武渋谷店先・公園通り

渋谷ジョイシネマ

(462)

2539

特別鑑賞券 ¥900

一般 ¥1,200
大学 ¥1,100の処
高校 ¥1,000 発売中!